



皆さんこんにちは！

地域おこし協力隊の渡辺です。

今月の集落支援だよりでは、恒例となった田植えの様子と奥川七観音ウォークについて紹介します。



がじで線を引く様子

今年も、岩橋集落支援員の協力・指導のもと、米作りが始まりました。3年目を迎えた今回は、地域おこし協力隊や国際芸術村の滞在アーティストら10名が参加し、新型コロナウイルスの感染が拡大しているため、マスクやアルコール消毒などの対策をした上で実施しました。

奥川地区で田植え体験



直接、手で植えました

いとあつという間に田植えも終わってしまいます。

例年であれば、昨年収穫した米をおにぎりにして作業後に畦で食べていましたが、今年は雨のため集落支援拠点施設「結」で食べました。

参加した人は、結という村の相互扶助の文化に触れながら、慣れない手つきで普段しないことに新鮮さや楽しさを感じている様子でした。

毎年の収穫量は80〜90畧になります。今年はどのくらい採れるのか、秋の収穫が今から楽しみです。

奥川七観音ウォークを開催

奥川地区の御詠歌がある7つの観音堂を周遊する「奥川七観音ウォーク」が6月6日に開かれました。新型コロナウイルスの感染防止の観点から、町民限定で参加者を募集し、8名が参加しました。



当日は好天に恵まれ、12歳以上の道のりを説明を聞いた後、写真を撮ったりしながら歩きました。

奥川みらい交流館を出発し、道目、下松、向原、中ノ沢、松峯、小山の林道を



通り、真ヶ沢、中町の順でコースを巡りました。参加した皆さんは、奥川地区の人が中心となって書いたオリジナルの御朱印を嬉しそうに受け取っていました。

参加した皆さんは1日かけて長い距離を歩いたため疲れた様子でしたが、7つの御朱印を集めた達成感や奥川の景色を堪能できて良かったと話していました。

8月18日には、奥川地区・極入で大聖歓喜天の祭礼が町民限定で行われる予定です。この機会に足を運んでみてはどうでしょうか？